

1. 件名：福島第一原子力発電所3号機使用済燃料プール内の制御棒等高線量機器取り出し計画に係る面談
2. 日時：令和4年6月2日（木）10時30分～12時00分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
澁谷企画調査官、松田室長補佐、横山係長、塩唐松係員、高木技術参与
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所 担当3名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社から、福島第一原子力発電所3号機使用済燃料プール（以下「SFP」という。）内に保管中の高線量機器の取り出しの計画について、資料に基づき主に以下の説明があった。

➤ 前回面談からの補足・修正事項

- ✓ 計画の工程を示した線表について、水抜き・壁面／底部除染の記載について適正化を行った。
- ✓ SFP内制御棒及びチャンネルボックス等の取り出し計画について、取り出し機器とその数量等をまとめた表に、使用機器を追記した。
- ✓ 高線量機器取り出しにおける安全確保策について、燃料取扱機・クレーンの仕様等をまとめた表を、構内輸送容器についても同様に仕様等をまとめた表を追記するとともに、該当する実施計画の項目についても抜粋を記載し、有人作業における安全確保について明確化した。
- ✓ 使用する作業台車について、落下防止設計を含めた具体的な設置内容を追記した。

○原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、主に以下のコメントを行った。

- 最終的に燃料ラック等も取り出して、プールを水抜きすることとしているが、取り出しの進捗過程での早期水位低下の可能性等含めて全体工程の組み方についての考え方を説明すること。
- 取り扱う高放射線機器の具体的な放射線量率を明示するとともに、遮蔽水深の確保や作業員の被ばく低減の為の対策等について説明すること。
- 作業の安全確保策については、各取扱対象機器（各使用治具）毎に整理して説明すること。
- 作業台車における耐震評価（波及的影響）について、台車の落下による漏水の恐れがある一方、補給水システムが存在すること等総合的に検討した上で、水位変動による公衆被ばくへの影響検討に基づいた評価ロジックを示すこと。
- 高線量機器の取り出し作業に係るリスク管理について、想定している内容を説明すること。

6. その他

資料：

- 3号機 使用済燃料プール内の制御棒等高線量機器取り出し計画について